

World Liquor System

やまや

Business Report

第53期ビジネスレポート

2022年4月1日～2023年3月31日

株式会社 やまや

〈証券コード 9994〉

第 53 期 営 業 報 告

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第 53 期（2023 年 3 月期）の事業概要についてご報告申し上げます。

当連結会計年度（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、行動規制の緩和等により経済活動に回復の動きは見られたものの、エネルギー価格、食料品を中心とした急速な物価上昇により、消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、お客様に安心して店舗をご利用いただける環境づくりに努めるとともに、ウィズコロナの中で、お客様の消費行動の変化に対応した商品やサービスの提供に努め、今後の成長に向けた新規出店や既存店の活性化及び事業の更なる効率化に取り組んでまいりました。

当連結会計年度（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日まで）における当社グループ連結業績は、酒販事業売上高が 1,303 億 16 百万円と堅調に推移し、外食事業売上高は、新型コロナウイルス感染症が収束傾向となり、インバウンド需要の増加、各種イベントの再開等により回復傾向となったことで 227 億 5 百万円となり、連結売上高は 1,527 億 64 百万円（前年同期比 6.5%増）となりました。連結営業利益につきましては、販管費において、電気代及び人件費の



株式会社やまや
代表取締役 会長 山内 英靖



株式会社やまや
代表取締役 社長 佐藤 浩也

増加による影響はあったものの、外食事業の営業損失が大幅に減少したことにより 28 億 37 百万円（前年同期比 341.1%増）となりました。連結経常利益は、外食事業において新型感染症拡大防止協力金等の計上が減少したため 29 億 53 百万円（前年同期比 66.4%減）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、19 億 30 百万円（前年同期比 56.1%減）となりました。

当連結会計年度末において、酒販事業 351 店（前年同期比 6 店増）、外食事業 668 店（同 53 店減）、グループ合計店舗数 1,019 店（同 47 店減）を運営しています。

今後とも株主の皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【経営理念】

株式会社やまやは「流通、販売の合理化を実践し、消費生活を豊かにすることで社会に貢献する。」という、やまやグループ経営理念、そして、三方善（さんぼうよし）の考えを基にしたやまやグループ行動規範を実践しています。

三方善とは、「売り手善し、買い手善し、世間善し」すなわち、売り手、買い手、そして世間の三方が、末永く続くことをいいます。

株式会社やまやは、お客様、お取引様、我々の主体性の三方を平衡（こうへい）に考え、経営理念実現のため、日々、この三方善の信条を以って考動（こうどう）してまいります。

第53回定時株主総会決議ご通知

2023年6月22日開催の当社第53回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報 告 事 項

1. 第53期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

本件は、事業報告の内容、連結計算書類の内容及び監査結果の報告をいたしました。

2. 第53期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

本件は、計算書類の内容を報告いたしました。

決 議 事 項

議案 取締役7名選任の件

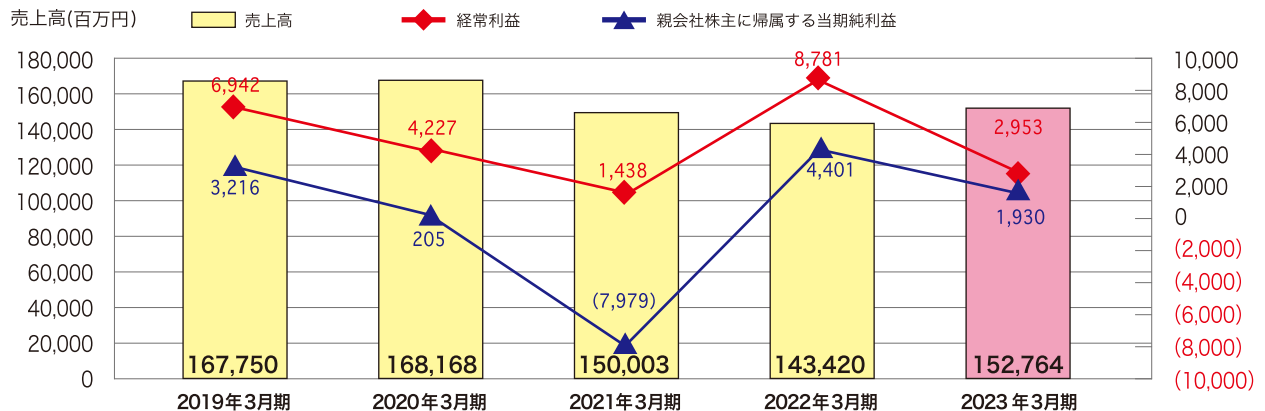
本件は、原案どおり承認可決され、山内 英靖、佐藤 浩也、山内 一枝、山内 英房、糠塚 紀久夫、土谷 美津子、山岸 洋の各氏が取締役に選任され、それぞれ就任いたしました。土谷 美津子、山岸 洋の両氏は、法令に定める社外取締役であります。

以 上

[連結決算推移]

（単位：百万円）

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売 上 高	167,750	168,168	150,003	143,420	152,764
営 業 利 益	6,894	4,163	△251	643	2,837
経 常 利 益	6,942	4,227	1,438	8,781	2,953
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,216	205	△7,979	4,401	1,930



酒販事業トピックス

酒販事業における売上高は 1,303 億 16 百万円（前年同期比 1.0%減）、営業利益は 41 億 1 百万円（同 16.5%減）となりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による巣ごもり需要が減少しました。行動制限の緩和により、外出機会が増加し、10月からは全国旅行支援が開始されるなど、お客様のニーズに合わせ、キャンプ商材や手土産商材の品揃えを充実させました。大手ビールメーカーが10月から値上げをしたため、9月中旬に大きな買い置き需要が起きました。11月にサッカーワールドカップ、3月にWBCが開催され、スポーツ観戦のための家飲みの機会も増え、ビールをはじめ世界各国のお酒の紹介やカクテルなど新しい飲み方の提案を積極的行いました。各自治体独自に実施されたキャッシュレス決済キャンペーンでは、一部の店舗でお客様の来店機会の増加に繋がりました。

築館店（宮城県）は移転し、新規出店として、宮古宮町店・前沢店（岩手県）、湊鹿妻店（宮城県）、鉄砲町店（山形県）、志木中宗岡店（埼玉県）、岡山平井店（岡山県）、姪浜小戸店（福岡県）の計8店を開設しました。また、山形業務店（山形県）を閉店しました。これにより、2023年3月末における酒販事業の総店舗数は、351店舗（前年同期比6店増）となりました。



▲鉄砲町店（山形県）



▲志木中宗岡店（埼玉県）



▲前沢店（岩手県）



▲やまや公式アプリ

サステナビリティ

やまやグループは、「お酒」と「食」を通じて「持続可能な社会の実現」に貢献します。

リデュース・リユース・リサイクル（3R）推進の取り組み

酒類を販売する側の責任としてビール瓶や一升瓶等のリターナブル瓶の回収をはじめ、アルミ缶等のリサイクル資源の回収を行うことで廃棄物の削減やリサイクル率の向上を図り、環境と社会への負荷を軽減しながら酒の提供を行っています。2022年度のリターナブル瓶の回収実績は1,063,705ケース、リサイクル資源の回収実績は6,263トンとなりました。



ペットボトルやアルミ缶
スチール缶の回収



環境保全への取り組み

環境・社会に配慮した商品の展開強化として、生産者から販売者、購入者、再生利用事業者などの「バリューチェーン」で環境負荷を低減させた商品をお勧めしています。

当社のワイン全体に占めるオーガニック（無農薬）ワインの販売構成比は2022年度において約23.7%を占めています。

また「海をきれいにする会」による海岸の清掃活動等への支援、「イオンの植樹活動」を通して環境問題の解決に取り組んでいます。



サステナブルワイン



植樹活動

社会貢献への取り組み

東北楽天ゴールデンイーグルスの2023オフィシャルトップスポンサー、Bリーグ 仙台 89ERS、J3リーグ 福島ユナイテッドFCのオフィシャルスポンサーなど、地元プロスポーツチームのスポーツ振興を通してサステナブルな地域社会の実現に取り組んでいます。

また、海をきれいに募金、24時間テレビチャリティ募金、赤い羽根募金、青い羽根募金等の店頭募金活動を通して、様々な社会課題の解決に向けた取り組みに貢献しています。



東北楽天ゴールデンイーグルス
ユニフォーム袖広告



仙台89ERSユニフォーム背中広告

外食事業トピックス

外食事業における売上高は 227 億 5 百万円（前年同期比 87.1%増）、営業損失は 12 億 74 百万円（前年同期は営業損失 42 億 82 百万円）となりました。

外食業界におきましては、4月から6月においては経済活動の正常化が進み、売上高に緩やかな回復が見られましたが、6月下旬頃から感染者数が増加すると、大人数での会食や宴会に対する自粛の雰囲気が高まり、宴会のキャンセルが相次ぐなど、居酒屋業態は厳しい状況が続きました。しかし、その後は感染者数の減少に伴い、9月以降の売上高は回復基調にあります。

このような状況のなか、当社グループはコロナ前及びコロナ禍を経て、お客様のライフスタイルや価値観の変化に合わせ、個店ごとの存在価値を高めていくことが重要となりました。宴会ニーズが変化するスピードも速くなり、少人数から大人数需要へ、席予約からコース宴会予約へ、個室需要の高まりなど、ターゲット別に開発した商品の打ち出しを行い、集客に活かしてきました。また、コロナ禍で減少した「大箱店舗」の特性を活かし、インバウンド団体や国内旅行団体の集客も順調に推移しました。DX 推進の取組として配膳ロボット、スマホオーダー、モバイルPOSの導入などを継続するとともに、生産性の向上とコストの抑制に努め、損益分岐点売上高の維持と更なる引き下げの努力を継続しております。

2023 年3月末の飲食直営店は、355 店（前年同期比 21店減）、飲食FC店は、313 店（同 32 店減）となり、飲食店の総店舗数は、668 店（同 53 店減）となりました。



▲配膳ロボット



▲スマホオーダー

サステナビリティ

食品リサイクルループ

「池田屋 はなの舞」が、食品廃棄ゼロエリア創出の推進モデル事業に参加いたしました。

2022 年 11 月より、「池田屋 はなの舞」では「京都市食べ残しゼロ推進店舗」として、食べ残しの持帰りの呼びかけなど、お客様とのコミュニケーションを図り、食品廃棄ゼロへ向けた取組みをしております。それでも出てしまう食品ロスや食品残さについては、食品リサイクル法に基づく再生利用事業計画の取組みの一環である「食品リサイクルループ」制度を利用し、飼料にリサイクルすることで、食品リサイクル 100% へ向けた取組みをしております。



水産資源を守り環境に配慮

新潟県の底引き網漁で入ってくる甘海老以外のエビ（品種的にはガスエビの稚海老など）を凍結、粉付けの工夫で商品化し、安べゑ業態を中心に全国で販売しております。また、小魚「カタボシイワシ」は、小骨が多く魚体にバラつきがあるため流通しない小魚ですが、鹿児島県指宿（いぶすき）漁協と協働し、酢ペにした切り身で食べやすくして販売しました。

不要となったポリエステル製の巻き網のリサイクル樹脂を原料の一部に加工し、漁網由来の配膳トレーを共同開発いたしました。トレーの 2 次元コードを読み取ることで、現材料の漁網がどの漁港で使用されていたかや、トレー生産の際の CO2 排出量などが確認可能となりました。

会社概要

会社名 株式会社やまや
英文社名 YAMAYA CORPORATION
本社所在地 〒983-0852
宮城県仙台市宮城野区榴岡三丁目4番1号
設立年月日 1970年11月26日
資本金 32億4,733万円
従業員 (酒販) 3,366名 (外食) 1,961名 (計) 5,327名
主要な事業内容 酒類・食品類の輸入及び小売・卸売
通信販売、外食事業
ホームページ <https://www.yamaya.jp/>
主要連結子会社 やまや商流株式会社、やまや東日本株式会社
やまや関西株式会社、大和蔵酒造株式会社
チムニー株式会社、株式会社つば八
上場取引所 東京証券取引所 東証スタンダード(証券コード 9994)

役員 代表取締役会長 山内英靖
代表取締役社長 佐藤浩也
取締役ファウンダー 山内英房
取締役副会長 山内一枝
取締役 糠塚紀久夫
社外取締役 土谷美津子
社外取締役 山岸洋
常勤監査役 早坂克昭
社外監査役 鈴木一樹
社外監査役 黒澤徳治
執行役員 代表取締役社長執行役員 佐藤浩也
執行役員 大竹聡 店舗開発部長
執行役員 山内仁 人事部長
執行役員 田原口裕基 経理部長
執行役員 大崎裕二 情報システム部長
執行役員 中谷和裕 総務部長

※2023年6月22日付

[株式の状況]

発行可能株式総数 35,000,000 株 | 発行済株式総数 10,847,870 株 | 株主数 17,614 人

株
式
メ
モ

- 事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日まで ●定時株主総会：毎年6月開催
- 基準日：定時株主総会（毎年3月31日）、期末配当金（毎年3月31日）、中間配当金（毎年9月30日）そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日。
- 株主名簿管理人／特別口座／口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1（電話：フリーダイヤル 0120-232-711）
- 公告：電子公告により行います。 <https://www.yamaya.jp/pages/ir/koukoku/index.html>
やむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

[大株主 (上位10名)]

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
■ 山内コンサルタント株式会社	2,476,000	22.83
■ 山内英靖	2,169,640	20.01
■ イオン株式会社	2,072,730	19.11
■ 山内浩晶	325,060	2.99
■ 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	295,800	2.72
■ 株式会社七十七銀行	220,000	2.02
■ 山内英房	197,960	1.82
■ SMBC 日興証券株式会社	129,000	1.18
■ 山内一枝	85,800	0.79
■ 株式会社日本カストディ銀行（信託口）	80,200	0.73

[所有者別分布状況 (株式数)]

